

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年 3 月30日
事業所名	グループホーム チアフル 咲明かり
事業所番号	2392200081
記入者名	職名 ユニットリーダー 氏名 山岸 加代子
連絡先電話番号	0586-51-9082

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お年寄りの自己決定を大切にします。 お年寄りの自立支援を図ります。 お年寄りの個性を尊重します。 お年寄りの生きてこられた人生・価値観を大切にします。 お年寄りの気持ち・体を傷つけることは絶対許しません。 家族・地域との連携を大切にします。 利用者の自己決定を尊重し、家族と相談しながら自立支援している。	もう少し自己決定を大切にしたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回行われるスタッフミーティング時に、理念を全員で復唱し共有している。	利用者さんの気持ちと、家族の気持ちにすれ違いを感じることもあるので、それを埋めることができればと思う。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議で活動とともに報告している。夏祭りなどに地域の方を招待し、実際にチアフルを見て、知っていただく取り組みをしている。家族には、チアフル便り等を利用し、日々の暮らしを報告したり、行事の参加を依頼している。	まだまだ地域の方にチアフルを理解されていないと思うので、気軽に出入りできるホームにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物などへ出かけた際、積極的に挨拶しチアフルを知ってもらおう、理解してもらおうと努力している。夏祭りの招待状を近隣の方に配布したので子供たちも参加してくれた。よく行く喫茶店にもチアフルを覚えてもらえた。	喫茶コーナーが設置してあっても、活用されていないので、有効に活用したい。近所の方への挨拶は大切に続けていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で祭りがあっても、窓から見ているだけで参加していない。老人会、町内会に入っているが、交流の機会がまだまだない。	地域のゴミ拾いやお祭りに積極的に参加していくべき。共有スペース、喫茶コーナーも設置してあるため『介護教室』などを開催し近隣の方に来ていただけると良いと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>今回の外部評価後、改善策をミーティングで話し合い、自己評価、外部評価が意味のあるものにして行きたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>勉強会を開いてほしい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>当施設内外での研修が必要。知識の共有化を行いたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職したスタッフにも行事等に参加できるよう連絡を取り合っている。私が勤務しているユニットでは、退職したスタッフが居ないので、利用者への細かな説明は行ったことがない。		新入社員の紹介する必要がある。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前に技術訓練はあったが、それ以降は行われていない。管理者やリーダーのみ県・市の研修へ行き、他スタッフがスキルアップする場がない。開所一年目で、研修までにいたっていない。		パートスタッフにも社外研修の機会を設ける必要があると思う。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームで行われたバザーに参加させていただき、こちらからは夏祭りに招待し参加していただいた。他のグループホームの状況を知る機会がない。		他のグループホームとの交流を増やし、情報交換できれば良いと思う。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットスタッフが集まり食事会を行っているが、勤務によっては参加できないスタッフもいる。管理者と話す機会はあるが、運営者と直接話せる機会は少ない。		利用者から離れて休む事ができる休憩時間がほしい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全ての業務を正職だけで行わず、遠足・外食・外出の計画、ケアプラン・レクリエーションの計画など正職とパートが同じ立場で役割分担し、責任を持って業務に取り組めるようにしている。各自に向上心はある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用開始1ヶ月は、できる限りスタッフが傍に寄り添い、状態や言動を細かく記載し、行動の観察をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前であれば、来所し見学・相談を行う事を勧めている。相談から入居に至るまでは、運営者・管理者・ケアマネが対応している。利用前の仕事に関与していないのでわからない。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>運営者・管理者が行っているのでわからない。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>小規模多機能ホームでは、試し利用を実施している。グループホームでは、一度試し利用を実施したのみでそれ以降行われていない。自宅で使い慣れた物を持参してもらい、落ち着ける空間を造る努力をしている。本人が納得していなくても入居してくる利用者もいる。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の献立を一緒に考えたり、遠足・外食の行き先も利用者を交え話し合っている。戦争体験や調理についてなど、教えられる事がたくさんある。利用者の普段の会話に耳を傾け、気持ちを尊重している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		<p>それぞれの立場で考え、良い関係を築けるようスタッフ間で話し合う機会を設ける。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		<p>ケアプランに生かす。 本人の気持ちを抽出し、喫茶店やお墓参りに連れていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		<p>女性利用者は支えあう事ができているが、男性利用者も仲間に入れる環境を整えたい。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		<p>サービスの終了した利用者家族が希望するのであれば、行事への招待状やチアフル新聞を送付してはどうか。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から聞いた事、本人から聞いたこと、日頃の何気ない会話・行動からスタッフが気付いたことを記録に残すよう努めているが、スタッフ全員に統一されていない。叶えられることならば努力するが、本人の希望に添えないことが多々ある。そうしている方だと思う。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や以前利用していた施設からの情報で、これまでのことを把握するようにしている。得意な事を生かし暮らしていると思う。入居時にご家族に協力していただき、アセスメントの作成をしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活記録に記載するようにしているが、『 していた』などの簡単な記録しか残っていない日が多く、心身状態や言動、家族の意向など記録から読み取ることができない。利用者に関わり、その人を理解できるよう努めたい。見ていてわかる程度にしか把握できていない。</p>	<p>記録の必要性をスタッフに教える機会を設けたい。(記録を確実に残せるように)</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族に会えた時には意見を求め、話し合う機会を設けている。スタッフ間で、より良く暮らす為にはどうしたら良いか話し合っている。</p>	<p>意味のあるケア会議をしたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入退院時は早急に対応できていると思うが、担当者がプラン見直しを行うのみで、話し合いの場が少なすぎる。介護計画作成後であっても、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>意味のある介護計画を作成したい。勉強会の必要を感じる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残すようにしている。記録は細かく残しているが、見たままの様子だけの記載になりがち。2～3時間毎の個別記録と、特異な方の排泄記録をつけている。情報の共有はできている。		話や表情も含めての記入を心掛けていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が可能であれば、外出・外泊が実施されている。グループホームの利用者と、小規模多機能ホームの利用者が自由に施設内を行き来し、良い関係を築いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアが来所し、民謡や和太鼓の発表会があったり手芸教室が行われている。行事の際ボランティアを募っている。消防に来てもらい救急対応の勉強会を行った。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービス利用者は、家族とケアマネジャーが話し合う機会はあるが、グループホーム利用者にそのような機会は特にはないと思う。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂いていることは知っているが、それ以外はわからない。協働していないと思う。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族に人生歴やアセスメントシートを提出して頂き、グループホームでその人らしく安心して生活して頂けるように情報収集をしている。 (家での呼び名、一日の過ごし方など)		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分では気をつけているが、もしかしたら誇りやプライドを傷つけてしまっている事があるかもしれない。男性利用者の対応が難しく、不快を与えているかもしれない。個人情報の取り扱いには、十分注意している。		信頼関係ではなく、狎れなれく友達のような感覚で『～ちゃん』と呼ぶスタッフがいるため、対応の統一をもう一度話し合うべきだと思う。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人に合わせた質問の仕方で返答しやすいように声掛けしている。外食時、何を食べたいか自己決定に任せている。(病気がない限り)結果的に放置に近い状態になってしまっているところがある。		『外食したくない』と意思表示がある場合でも、ユニット全員で外出することを目的としているため、無理強いしている場合があるため、どうしていか検討必要。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの人数・都合等で業務優先になっている事の方が多いと思う。人員数からやむを得ない状況でもある。 スタッフ人数が充実しているときは、マンツーマンで対応し、個別ケアができています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	40日に一度移動美容室が来ている。『床屋へ行きたい』という男性利用者は月1回送迎付き添いしている。化粧をする利用者は、化粧品がなくなる前に買物に付き添っている。(移動美容室は家族と本人の気持ちをその都度確認している)希望があれば、洋服等の買物にも付き添っている。 髭剃り、爪きり、服装を整えるなど、基本的なことは出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作り(野菜切り、味見、盛り付け、配膳等)や食器の片付け、買い物は、その人の力に合わせて割り振ったり、自主的に参加して頂いている。一定の利用者とはそのようにしているが、食事を楽しい時間とする妨げもある。</p>		<p>いつも食器拭きに参加するメンバーが決まっており、他の利用者が参加しようとする、口論になる事があるため全員に参加して頂けるよう検討が必要。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>糖尿など病的に問題なければ提供している。一緒に買い物に行き、その人が食べたい物を選んでくれる。柔らかい物しか摂取できない人にも、その人に合わせた物を準備している。喫煙は自由だが、場所だけ指定している。希望があれば、夕食時にお酒を提供することもある。(病的に問題なければ)</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターン表を活用しトイレ誘導・介助行っている。尿取りパットを使用するのは、外出時と就寝時のみとし、日中は布パンツで過ごして頂いている。なるべく紙パンツや、尿とりパットは使用しないよう取り組んでいる。要介助の方についてはできていると思う。 現在、リハビリパンツ利用者は、自己にて交換できるので、本人任せにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>全てがスタッフの都合になってしまっている。曜日は指定しているが、入浴時間、入浴の順番は本人に任せている。</p>		<p>自由に入浴して頂きたいが、今現在は無理。どうしたら一人ひとりの希望やタイミングに合わせられるか、スタッフ間で検討したい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中は自由に居室、リビングで過ごして頂いている。夜間も眠れない時は、お茶・喫煙・談話にスタッフができる限り付き添い落ち着いたら入床して頂いている。体調を観察し、必要であれば助言している。</p>		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>週1回行われる書道教室には、ほぼ全員が積極的に参加し『次回までに練習したい』という声も聞かれるようになった。物静かで団体行動が苦手な利用者には、マンツーマンで喫茶店へ出かけた後、スタッフから喫煙に誘い楽しい時間を過ごして頂けるよう支援している。体調や天候を見て散歩にも連れ出している。全員で何かをする、どこかに行くという支援はある程度されていると思うが、個別ケアとしての楽しみ、気晴らしの提供はほとんどできていない。</p>	
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の理解を得て千円程度持つことができるようにし、希望時には、ほしい物を一緒に買いに出かけている。何か購入したかすぐ分かるようにレシートを小遣い帳に綴じてある。本人が支払ったり、計算する機会は少ない。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買物・散歩・喫茶店など、できる範囲で希望を叶える努力をしている。近所への買い物でも、スタッフと外出する機会を設けている。</p>	
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者とスタッフが話し合い、月1回遠足にでかけている。</p>	
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状やイベントの案内状、クリスマスカードなど、本人らに作成してもらい手紙を出す機会を設けている。ハガキの購入希望する方には数枚ずつ渡している。希望があれば電話を渡し、家族への電話は自由にしている。</p>	
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時、近況報告後は席を外しその時間を大切に過ごして頂けるように配慮している。家族・親戚・友達など、いつでも気軽に訪問できるようにしている。(面会時間等も決まっていない)居室・リビング・喫茶コーナーなど好きな場所で自由に談話してもらっているが、実際に訪問者・面会者がどう思っているのかはわからない。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしない、傷つけることは許さない。と理念に称している。取り組んでいると思う。実際に対象となるような利用者がいないのでよくわからない。スタッフは理解している。</p>	<p>ユニット入り口や、玄関に鍵をかけることも拘束に繋がるという事の認識が薄い。勉強会が必要だと思う。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>一日中玄関の鍵が閉まっており、窓の鍵も三重にしてある。 玄関が見える事務所に職員がいるときは、玄関の鍵を開けている。 玄関を出るとすぐ通りに面している為、事故防止で施錠せざるをえない。</p>	<p>数時間だけでも、玄関を開けられる時間を作りたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>仕事に追われ、気が付くと居場所不明な事があるが、外出時は特に気をつけて、一人にしては危険な利用者は必ずスタッフと行動を共にしている。建物の構造上、所在の把握がしにくいいため、まめに確認している。</p>	<p>利用者の安全を第一に考え、仕事のスピードが遅れても焦らない。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>刃物などは、一定の場所に保管している。化粧をする女性利用者が居室にカミソリを持っており、危険に感じることはあるが、化粧が生きがいで引下げる事ができず悩んでいる。注意が必要な物品は、目に入らない所に保管している。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>救命救急の講習を行った。自己報告書や、ひやりはつとを記入しているが、事故防止対応策にまでつなげて話し合うことがない。 行方不明に備え、マニュアルが作成してある。誤薬防止として、名前・日付・時間の確認を声に出して行っている。服薬後のゴミもすぐに処分せず、1日の終わりに飲み忘れがなかったか確認している。</p>	<p>スタッフ全員が講習を受け、心肺蘇生が出来るようにしたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>定期的には行っていない。初期対応（電話連絡等）のマニュアルがあるのみ。緊急連絡網を見やすい場所に掲示している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	何も行われていないため不安にも感じている。		定期的な避難訓練と、夜間を想定とした訓練も行ってみたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に、施設長からリスクの説明を家族に行っている。利用者の変化に合わせ、シルバーカーの変更や食事の変更をスタッフ間で検討し、家族に説明している。現状報告は行っていると思う。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の観察を行い、早期に気づけるよう努めている。バイタルチェック・問診を行っている。体調不良の際、家族への連絡は速やかに行えているが、スタッフ同士情報の共有ができておらず、話が食いちがっていることが多い。		申し送りの徹底がどうしたらできるのか？ どのように記録に残せば良いのか？ 検討する。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書は記録に綴じ、スタッフはいつでも見る事ができる。飲み間違いがないように名前・朝昼夜・日付を記入している。申し送りノートに記載し、情報を共有している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩・体操・掃除など体を動かす機会を設けている。毎朝ヨーグルトを提供している。入浴時に腹部マッサージを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯は、毎週日曜日は「ポリデントの日」としてスタッフが洗浄、消毒し預かっている。毎食後、スタッフも歯磨きをして、利用者に口腔ケアを呼びかけている。声かけに留まっているところもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量をわかりやすく一冊のファイルにまとめている。体調不良で食欲のない時は、ゼリー・プリン・ヨーグルト・フルーツなど食べられる時に、食べられる物を提供している。水分摂取が困難な場合は、とろみをつけるなど工夫し、咀嚼能力も考慮している。その日のカロリーを考え、食事量を増やしたり、減らしたりしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、スタッフルームに設置した。使い捨てのプラスチックグローブ・アルコール消毒のみで不安を感じる。		マニュアルの見直し。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック表を作成し、調理器具や食器の漂白を行っている。		マニュアルの作成。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の鍵は一日中閉まっているが、季節の造花で飾りつけをし、毎月チアフル新聞を張り出している。玄関周りは殺風景だが、危険はない。		ウッドデッキや玄関先に座って話せる空間を作りたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕飾り（大きな笹）、ちょうちん、紅葉、クリスマスツリー、正月飾り、ひな人形など季節に応じて飾りつけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファや、喫茶共有スペースで気の合う利用者が談話し自由に過ごしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用し使い慣れた物を自由に持ち込み「自分の家」を再現できるように配慮している。家族の写真を貼ったり、好きな花やぬいぐるみを飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには加湿器がある。広いリビングに対し小さな加湿器なのであまり効果がない。居室の温度調節を自分で行う利用者があり、外気温差が大きくなっている。気遣っている。掃除の際には、必ず換気を行い冬の冷たい空気も感じられるようにしている。		夜間、咳き込みのひどい利用者の家族と相談し、加湿器を購入できないか検討する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり(廊下)が設置しており、トイレ内にも可動式の手すりがある。多数の利用者に参加して頂けるよう対面キッチンで広く使えるようになっている。手すりを利用し、スタッフの目が届かない場所でリハビリを行うこともあり危険を感じる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札を設置。トイレにも表示してある。自立度に応じた手伝いをお願いしている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広いウッドデッキがあり、日光浴をしたり、景色を眺めたりできるが洗濯干し場になってしまい、憩いの場ではない。自然豊かな立地であるので、散歩に出かける事が多い。玄関先に花壇があり、利用者が水遣りをしてくれる。		ウッドデッキにテーブルやベンチを設置し、コーヒーを楽しんだり、食事・談話できる空間にしたい。ウッドデッキでバーベキューをしてみたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 3 1 1	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 1 3 1	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	2 3 1	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	5	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	3 2	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	2 4	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	2 4	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 4	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 1 2	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 3 1	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	2 1 1	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 3 1	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	2 2 1	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別ケアを行っている。

ピクニック、月1回の遠足、喫茶店、モーニング、散歩、ドライブ、ランチなど入浴日以外は外出の機会を積極的に多く設けている。

利用者の希望に合わせて外出・外食に出かけている。

認知症だから... 車椅子だからと施設内に籠らずどんどん外へ出て行く機会を設けている。遠足など日々の外出先も、スタッフが一方的に決めず利用者と話し合っ行き先を決めている。今まで外出を面倒だと感じて感じていた利用者が、行きたい場所を言えたり、車椅子で全介助が必要だった人が自力駆動し、車の乗り降りもスムーズに行えるようになった等、外出を多く行うことでリハビリ、体力づくりにも繋がっている。

「何時何分に出発です」と伝えれば、トイレを済ませコートを着てリビングに集合できるようになり、今ではフロアから車へ乗り込み出発するまでの時間が10分ほどでいえるようになった。外出先で見るいつもと違う表情にいつも驚かされる。

外出以外にも、週1回講師を招き書道教室を行ったり、ボランティアで手芸の先生を招き、作品をつくり掲示しているため利用者の意欲も高まっている。

民謡ボランティア、高校生による和太鼓演奏会など外部ボランティアを招き地域との交流も大切にしている。